

十一面観音(三の三) (サンスクリット語：Ekadasamuhka)

十一個の頭を有する観音菩薩・十一面観音菩薩は、仏教の教えの象徴である蓮華の上に立ってここでは見られます。像の最初の頭から派生する小さな頭は、十一面が耳を傾け、観察し、全ての衆生の要求を満たす多様な方法を表現しています。

他の十一面観音像と同様に、右手は願いを叶える印相で地面を指しています。左手は花瓶の中の蓮を支えています。本像は高さ 303cm で 1242 年のものです。そのたくましい容貌と力強い外観は、当時制作された彫刻には見られないものです。像は、彫像の本体を形成するためにいくつかの木片を組み合わせる木片接合造形技法・寄せ木造りを用いて制作されました。